



Evangeliion Fan Book
2013/08 Tetsu:2abi
Kaworu2hinji

DOIN
R18
Adult Only

巖

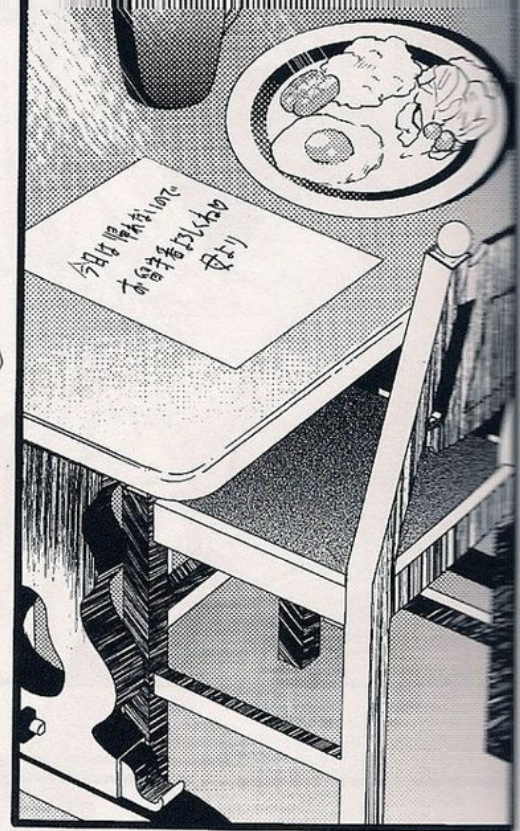
まいた 界世

の中の

。みサあいあおろぎあはるは関し本。 。まろろハ限のスーハミマロ
。ノチ不意あろ 。まあいあは素要ノマハサハハマ



今日は父さんも
母さんも
居ないんだ…



おっし座最下位か

こういうとき
ばっかり当たるん
だよな…
占いて



あの人に
出くわしちゃ



もう行かないと



本日のラッキー
星座占いの
コーナーです！

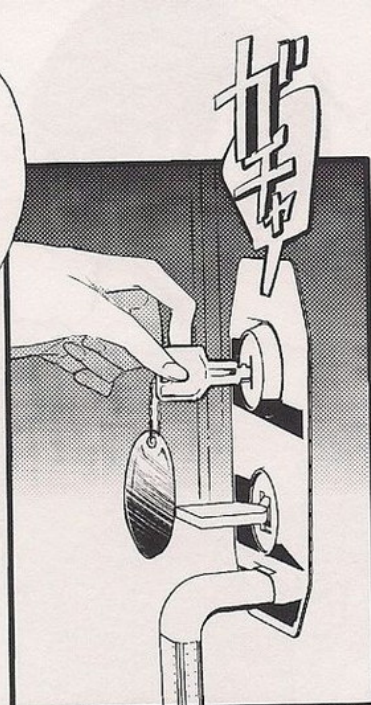
残念、
今日一番
ツイてないのは
おっし座の人

苦手な人の行動に
振り回されないように
注意しましょう！

ラッキー
アイテムは…



おや?
シンジ君



もう
渚先輩じゃなくて
カヲルって呼んでって
言ってるのに

どうして
渚先輩が
こんな時間に...



君はどうして
こんなに早く?

ごめん...
カヲル君



今日は日直なんだ
シンジ君も日直?

えっと
うん

奇遇だね

君と同じ
あるなん
感激の極



おはよう
今日はいつもより
早いんだね

渚先輩!?



早速
占いの効果が
出てしまったみたい



彼は
渚カヲル君

僕より1つ上で
学校の先輩だ

最近ずっと空き部屋だった
隣に引っ越してきた
以前はドイツに
住んでいたらしい

容姿端麗で
勉強もできて
おまけに人格者

たった数週間で
学校1の人気者まで
のし上がった
ミスターパーフェクト

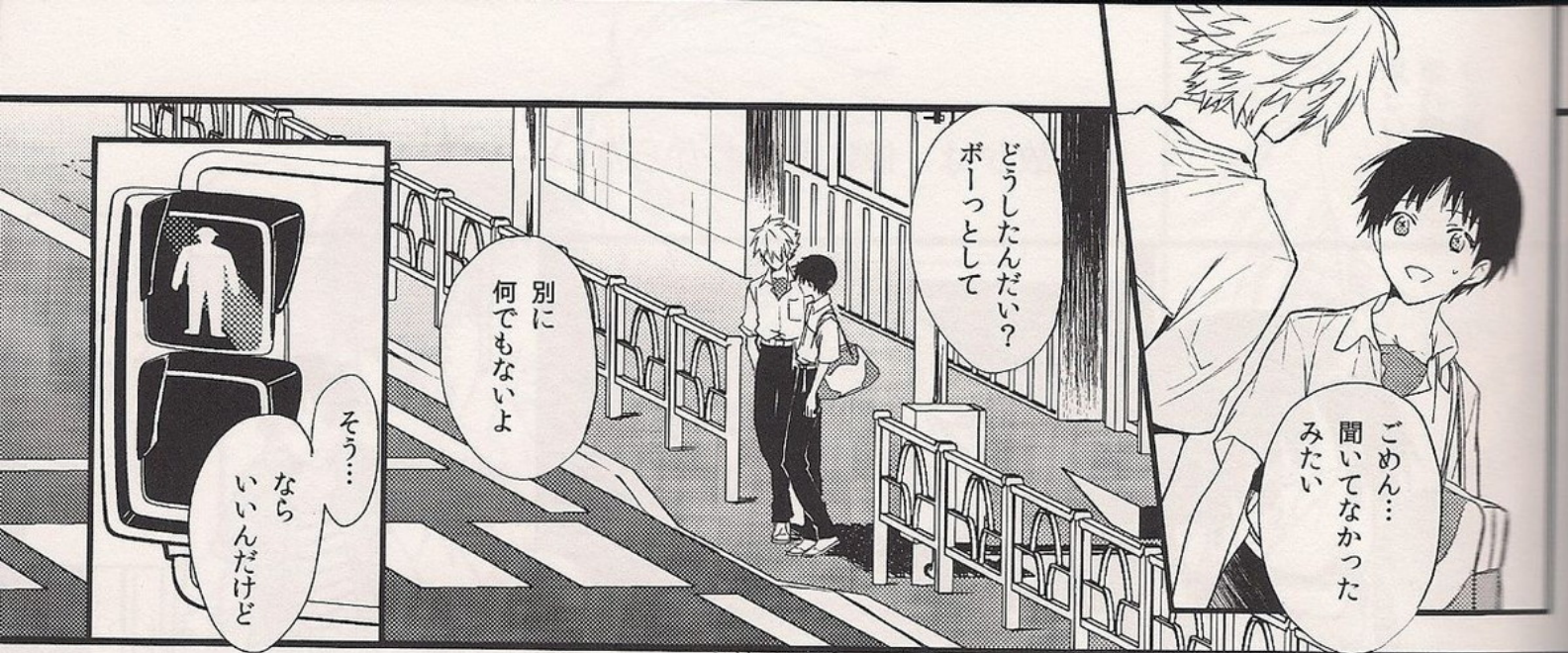
たまたまお隣さん
になっただけの僕を
とても気にかけて
くれている

たぶん彼を嫌いに
なる人なんて
居ないだろう

それなのに 僕は……

シンジ君

シン



何故かは 僕にも わからない

初めて彼に出会って
目が合った時
頭の中で響いた警告

あの
どちら様
でしょうか？

初めまして

隣に引っ越してきた
者カヲルです

引越しのご挨拶に
伺いました

キレイな人

めずらしい
赤い目…

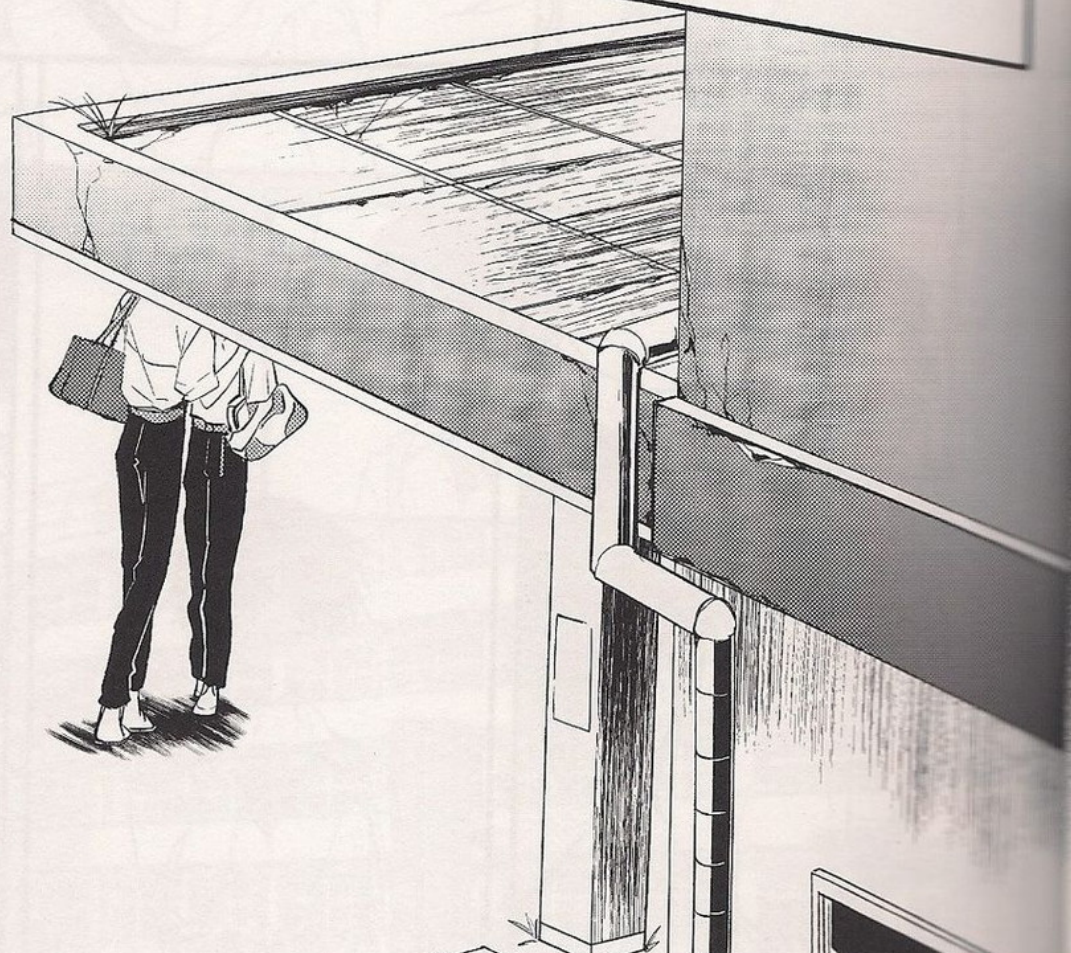
それが
なぜか怖かったのだ

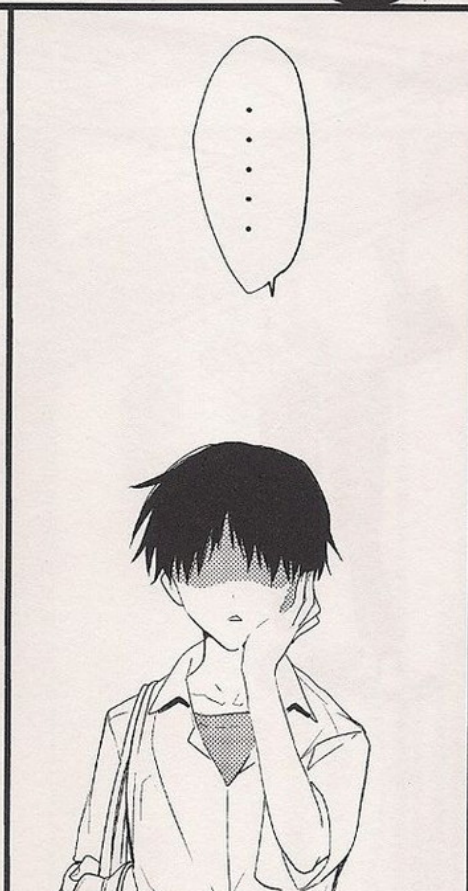
彼が僕を見つめる目

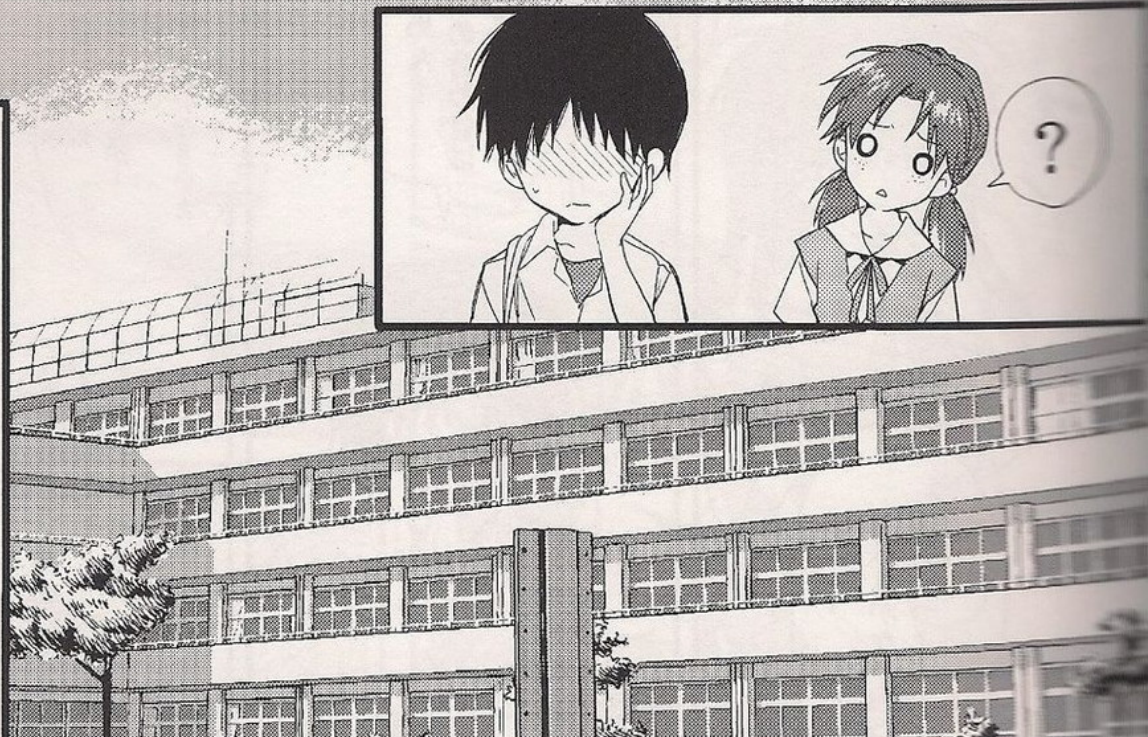
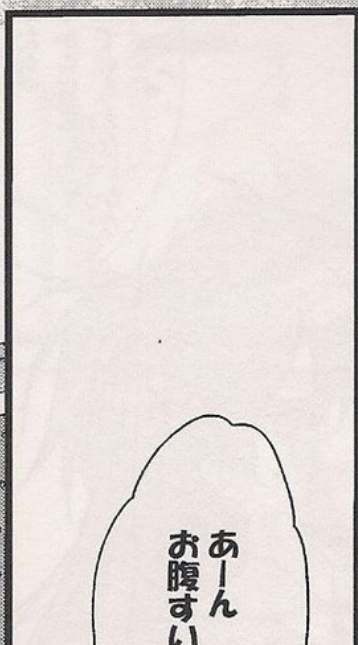
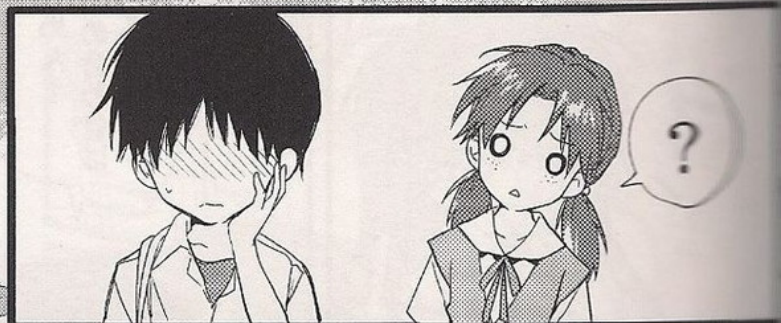
これから
何かとご迷惑を
おかけするかも
しれませんが

よろし
お願い

それじゃあ
カヲル君
日直 頑張っ







もう
活動限界！

くた

アスカってば…
10分休憩のときに
パン食べてたじゃない

いいのよ
育ち盛り
なんだから

あら
シンジ

教室で
食べないの？

うん…
ちよつとね
用事があつて

アスカに
お願いが
あるんだけど

？

もし
渚先輩が来たら
用事があるから居ないって
言っておいてもらえないかな

はあ？
なんでこの私が！
それくらい
自分で言いなさいよ

ごめん！
埋め合わせは
するから

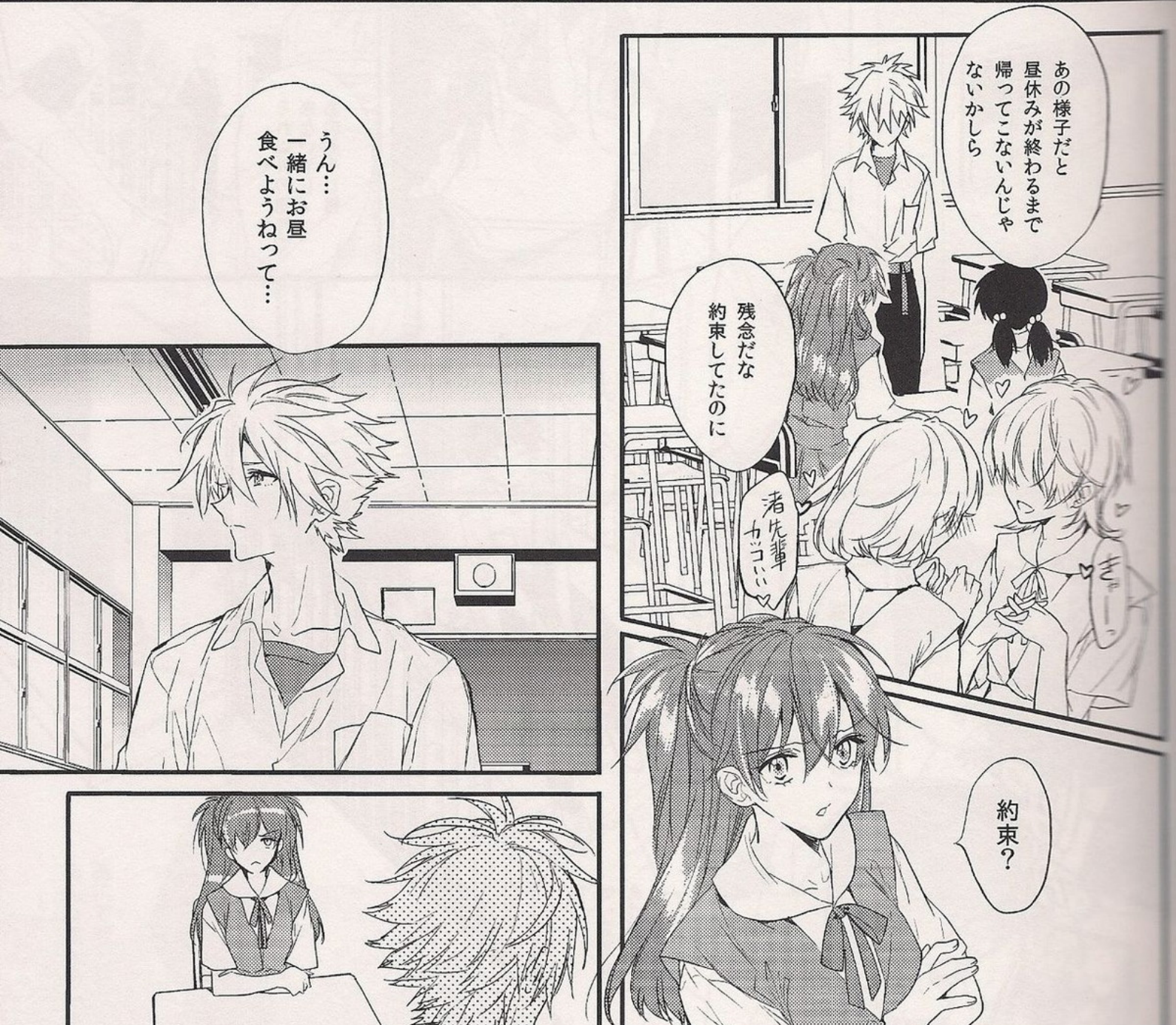
しょうがないわね
貸し1つよ

フッ



そう…

シンジ君
居ないんだ…



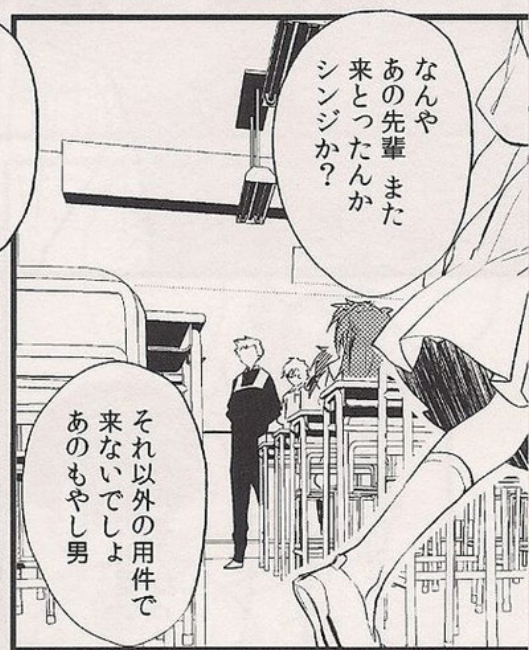
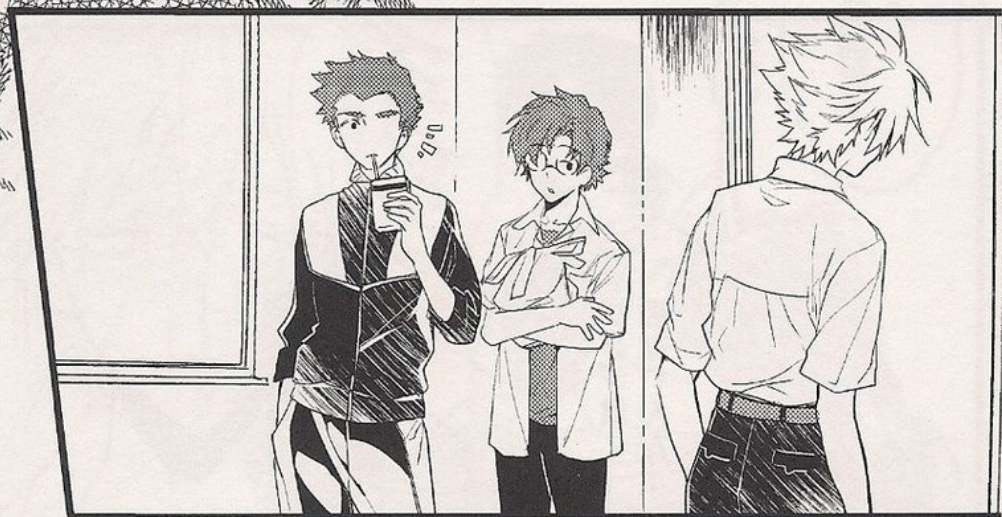
あの様子だと
昼休みが終わるまで
帰ってこないんじゃないかしら

残念だな
約束してたのに

渚先輩
カッコいい

約束?

うん…
一緒にお昼
食べようねって…



風が
気持ちいい…

カヲル君に

悪いこと
しちゃったかな



そつえば…



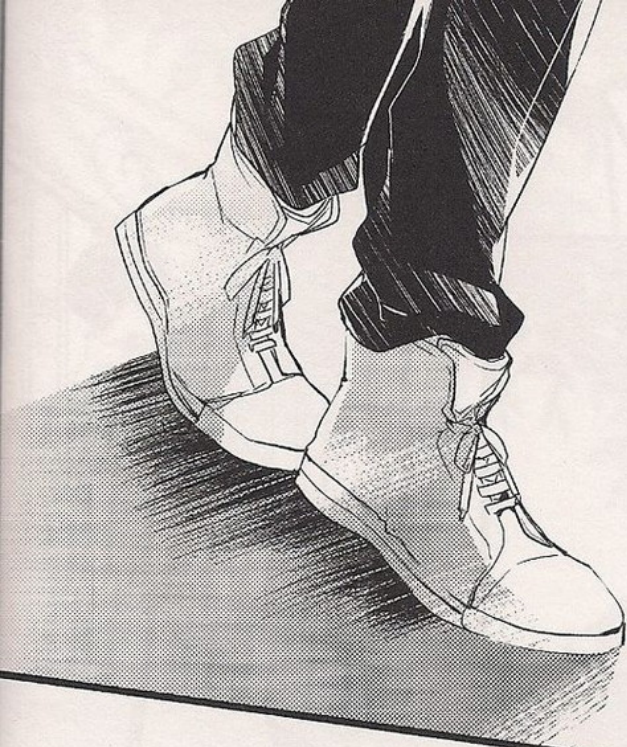
誰にでも
あんな風なのかな

カヲル君って



ああもう！
忘れろ忘れろ！

あれは挨拶だ
深い意味なん
無い！



良かった
こんなところに
居たんだね



すきん！？
何で？



探したよ



ど

どこにも君の姿が
見当たらないから
心配したんだ



ど



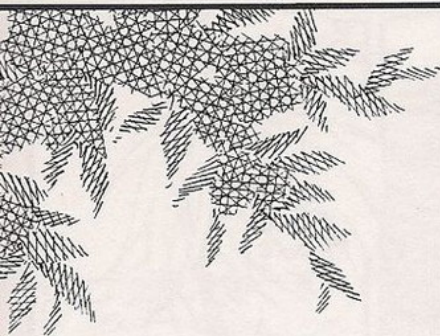


他に誰も
居ないし

教室のように
騒がしくないし



今日からここは
二人だけの
秘密の場所に
しようね



僕はカヲル君に
嘘をついて
約束を破って

こんなのカヲル
対して
不誠実だって
分かってるのに

胸がチクチクする



ねえ 君のお弁当
一口貰ってもいいかな



すごく
美味しそうだから
食してみたくって
しまつて…
ダメかい？

そんな
ダメじゃないよ

どうぞ



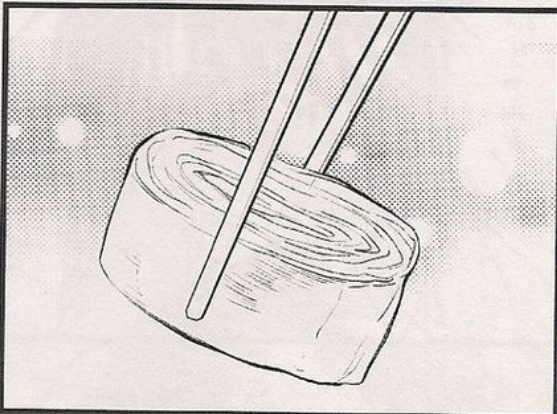
あの…

お箸持っていないんだ
だから 食べさせて
貰えないだろうか

ヤフルの
おひる

MILK

あ、
そうだったね



はい、
あーん







シンジ君の
好きなもの
用意して
待ってるね

僕――

どうしよう……

っていうワケ
なんだけど
どうしたらいいと
思う？

嫌なら断れば
良かったのに

ほんま
センセは人が
良すぎるで

そもそも渚先輩って
すっげえ良い人
らしいじゃん

なんでそんなに
避けるんだ？

なんでって……

上手く
いえないけど

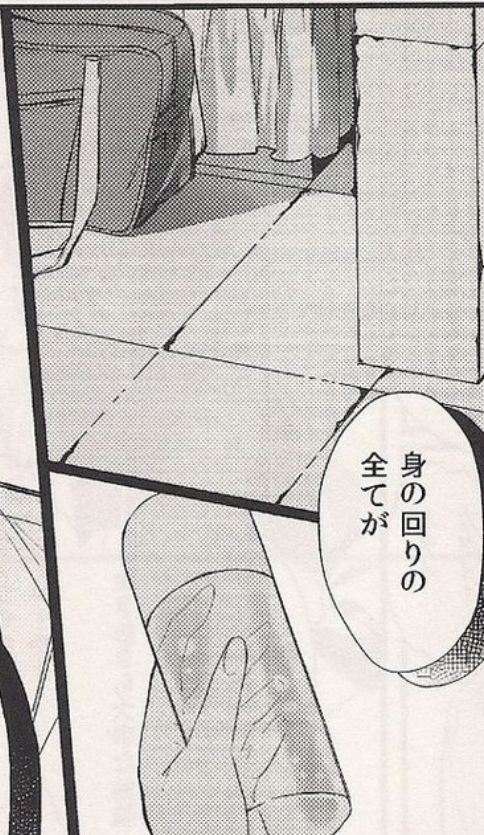
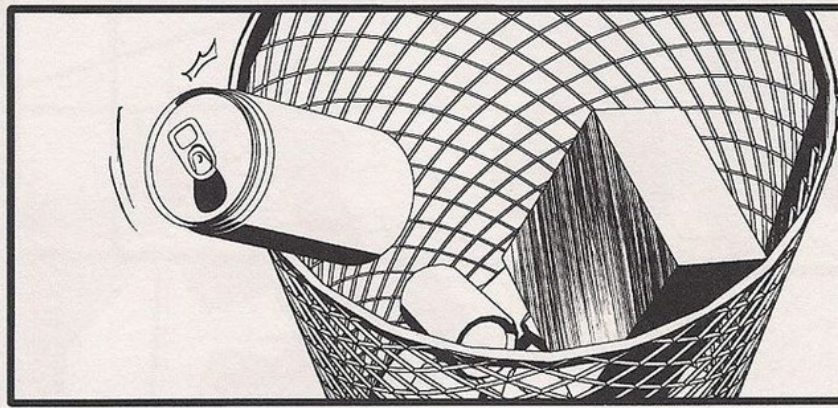
外した

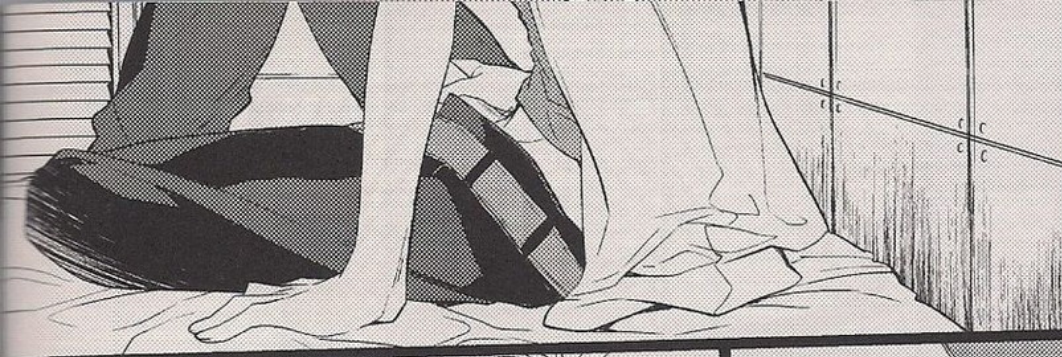
ガッ

ズボッ

カンッ

入った！





碇は
考えすぎなんだよ



もうちよつと
気楽に
考えなつて



せやなあ

そんじやあ
今日は俺達と二緒に
遊ぶつてのは
どうや？



それつて
大丈夫なの？
見つかつて
怒られない？

依ほし分に...



カタイ
カタイ！

当そ中イ



じゃあ今日は
シンジの寄り道
デビューや！

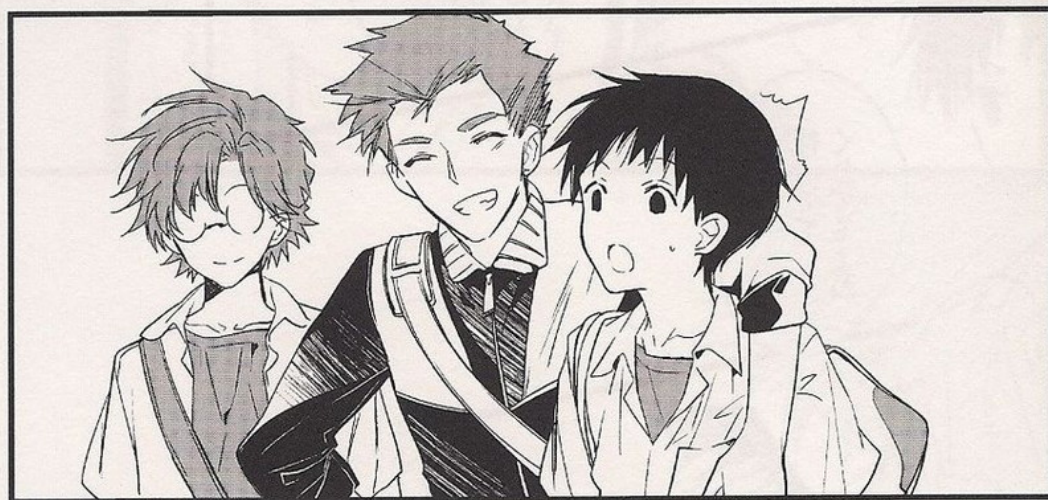
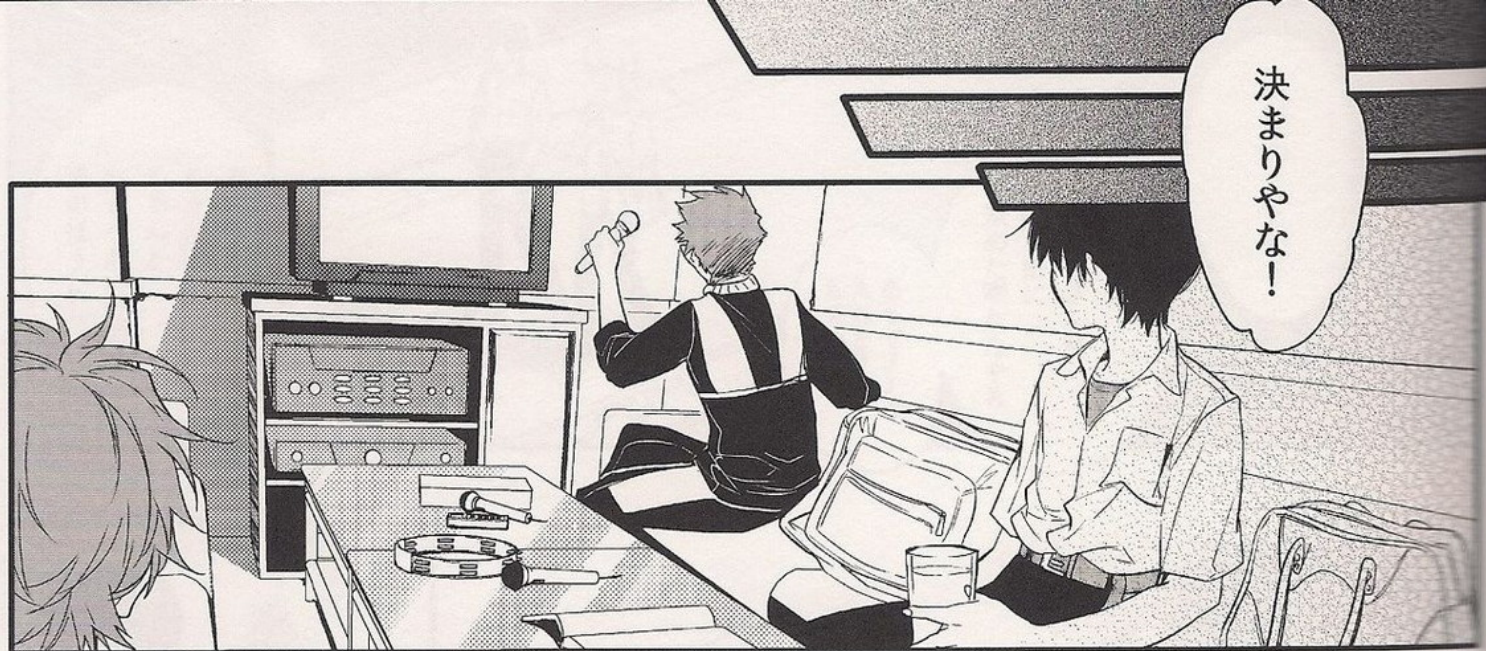
生き抜きも大事な
なんやで
カラオケ行つたり
ゲーセン行つたり



遊ぶ？

センセは
寄り道したこ
ないやろ

無いけ



7時…

まだ
待ってて
くれてるよね



先輩のことか？

そもそも
向こうさんが
一方的に
決めた事なんやろ

あとでメール
入れときや
ええやんか

それは…
そうだけど
ちゃんと
断らなかつたのは
僕のほうだし

碇？

やっぱり
僕行かなきゃ

遅くなっちゃったけど
まだ間に合うかも
しれないし
それで ちゃんと
謝らないと

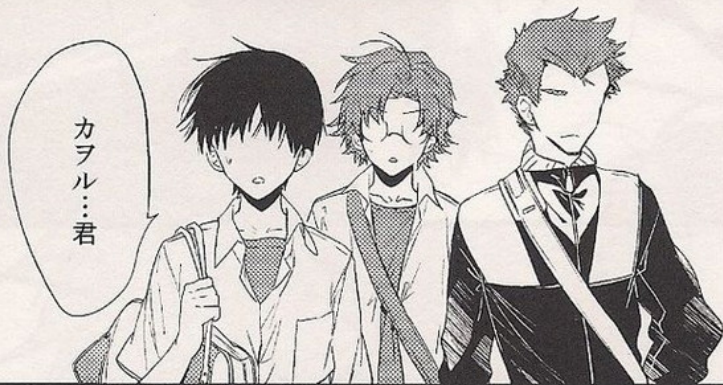
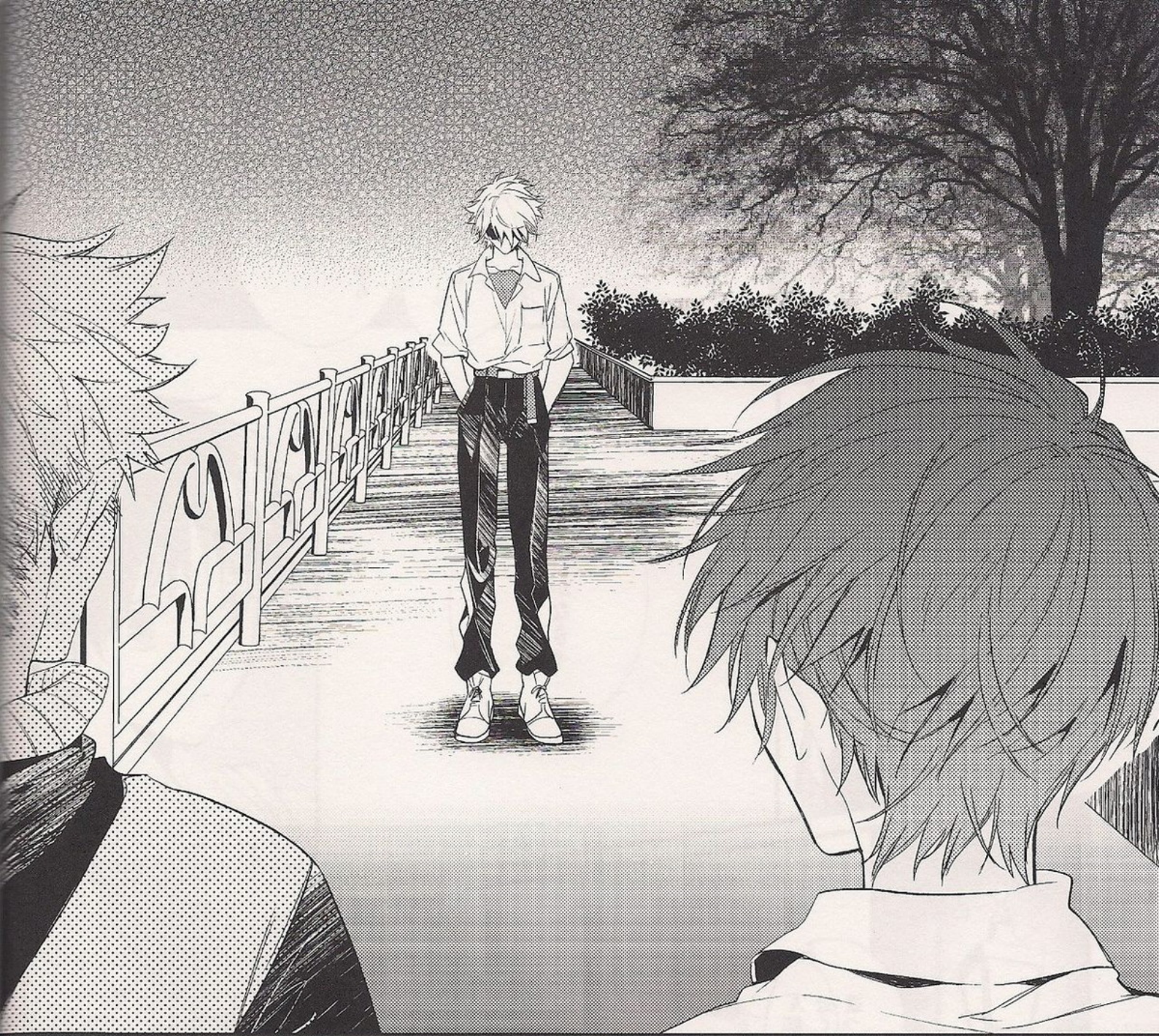
大丈夫か？
無理はよくないで

平気だよ
今日は
楽しかったよ

んじゃあ
近くまで
送ってこうか

ありがとう
でも近いかういふ

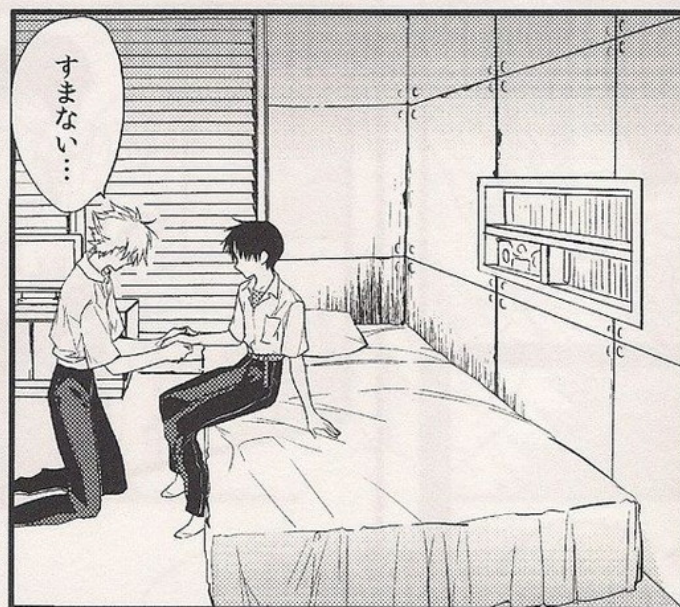
見つけた
シンジ君







思ったよりも
強く握って
しまったようで



すまない…



知ってたよ



ごめんなさい…
あの…僕…
君との約束…
忘れてたわけじゃなくて



いいんだ
僕が悪いんだよ



君が僕を
避けているってこと



僕は君の事しか
考えていないから



君が僕をどう
思っているかなんて
すぐに分かるよ



そんな…
でも

じゃあ…どうして



僕に構ったりなんか…

シンジ君…



僕は君を初めて
みたときに
運命の人だって
そう思ったんだ



君が居れば
世界が変わる
君の存在は
世界を変えてくれる

君が傍に居れば
それだけで
よかった



でもね



それだけでは
足りなくなつて
しまつたんだ

すり

君は僕に
嘘をついたよね

たとえば今日

君は今日
日直の当番
じゃなかったし
お昼も用事など無かった

僕もね
君に嘘を
ついたんだ

嘘……って……

あれは
ただの口実

お昼のお礼がしたいって
僕の家を招いた
約束のことさ

残念ながら

僕は
料理なんて
作ったことが
無いからね

だめだ…
僕はここに
居ちゃいけない

今すぐに
逃げなきゃ
取り返しがつかない

カヲル君…

放してよ

なのに…

体が動かない

なんで…

どうして…

もう逃がさない

今夜

君を僕のものにする



嫌という割には
大人しいじゃないか



君は僕が
怖いんじゃない

僕によつて
自分が変わ
ってしまうの
が怖いんだ



ねえ
君が僕を完全に
拒めないのは
なぜだと思う?

あぐ

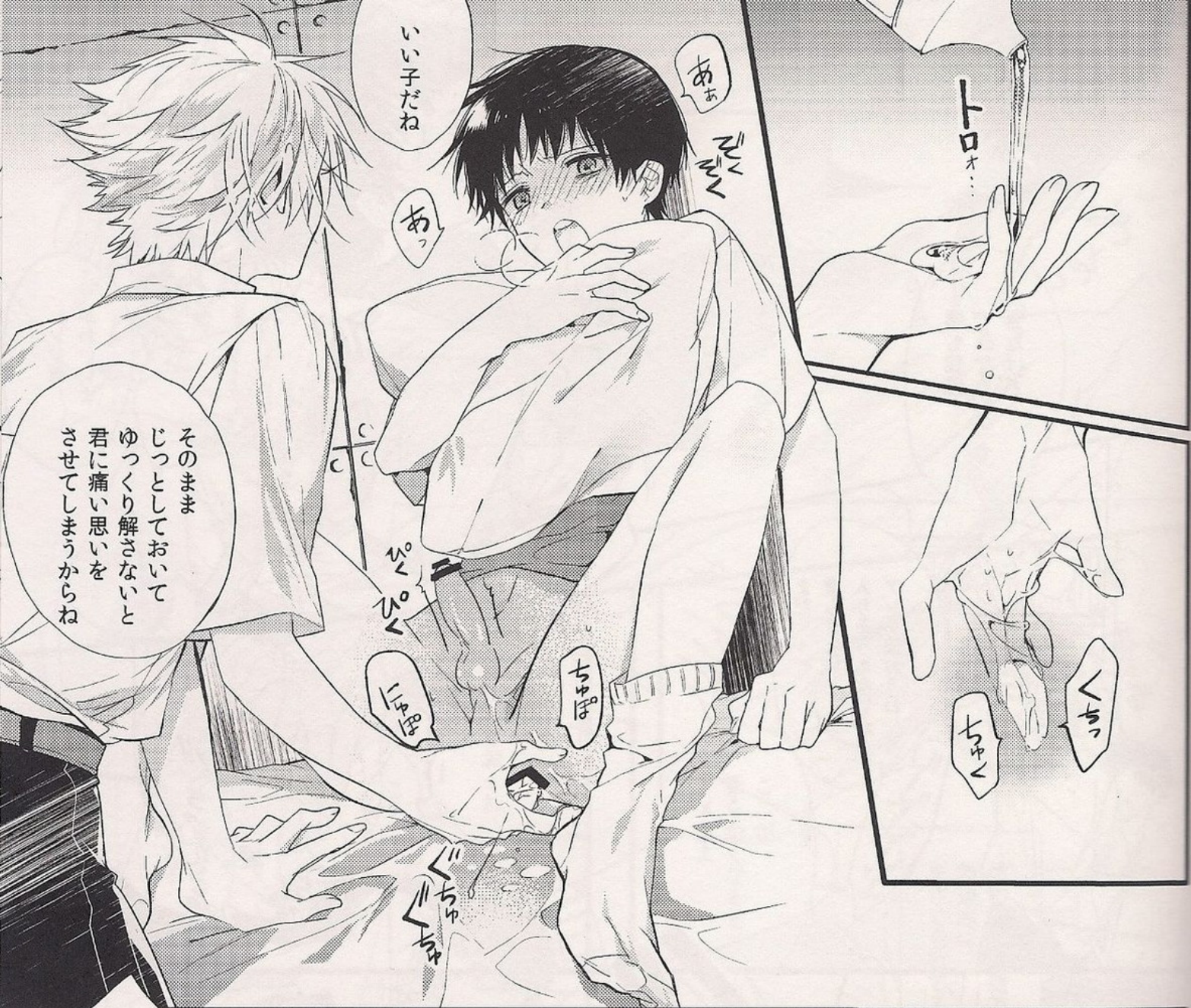
グ



運命の人さ

僕は君の心に
影響を及ぼしうる
存在

いわばそう





ちよつと
足を閉じておくれ

こ…
こう？

そう
いい子



あゝあゝ
だめえ！
とつてよ
カヲルくん！

体の中を機械で
無遠慮に
まさぐられてる

ここが
柔らかくなるまで
ダメだよ

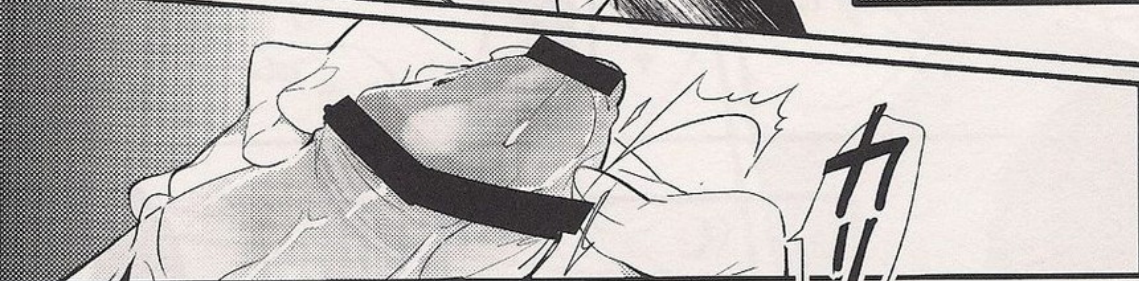


僕も
気持ちよく
させてね

ガシッ

そんなことより
僕との行為に
集中して

カヲル君も
気持ちいいのかな



そんな風に
僕を煽るなんて
イジワルだね
君は





夢みたいだね



夢?

こうして
君と僕が
肌を重ねて

淫らな行為に
耽る日が
来るなんて...

僕はずっと
夢に見ていたよ



あ

本物の君の身体の方が
とても扇情的で
美しい

それでも
想像で思い描いた
君の身体よりも

そして...
淫乱だ



はぁ

シンシン
シンシン

あ
ビーン



まだ全然
足りないよ

ぐちゃ
ぐちゃ

気付けば
君を思つて
一人で快楽を
探り続けて

大丈夫さ
怖くはないよ
シンジ君

あゝあゝあ

ズ
グググ
ズ

あ あ
やあ！

そんな
いきなりっ！

ギ
ギ

ひく

ひく

ギ
シ

ずる

グリグリしちや
やだあ

グ
リ

グ
リ

ひ
やるる

き
ん

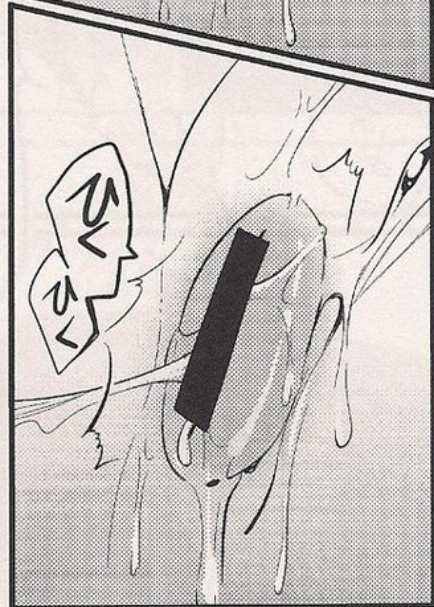


ねえ
シンジ君

そろそろ
良さそうだね



ちゅぽ



今日から
二人の世界を
変えよう

僕たちは
二人で1つ
死ぬまで一緒



死ぬまで？

そうだよ
君の心を
補完できるのは
この僕だけ

僕の心を
補完できるのも
君だけ

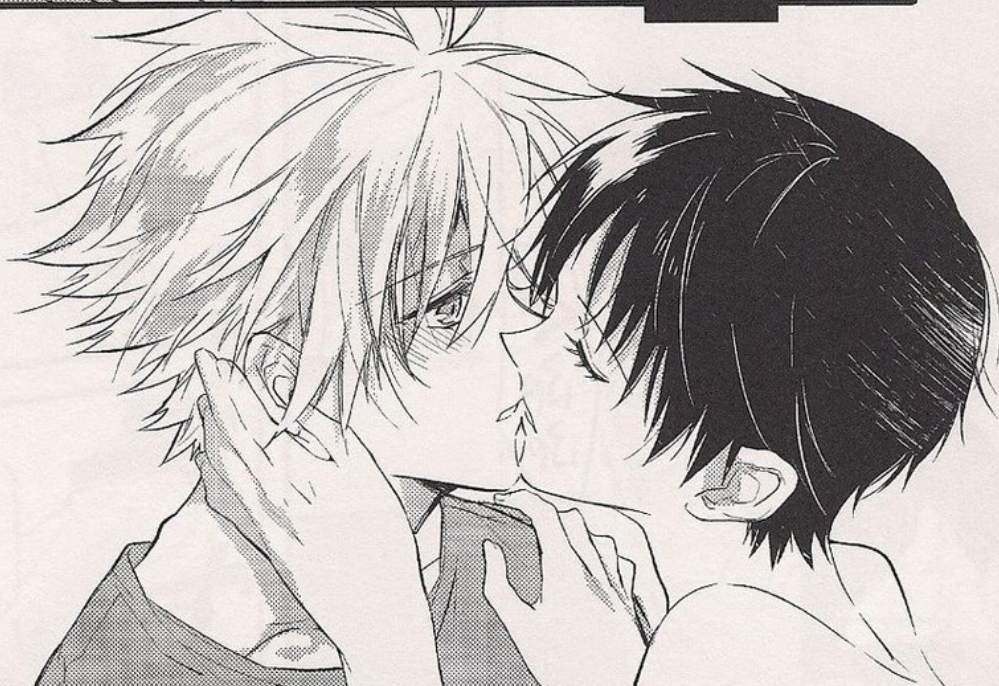
お互いの気持ちを
補い合った瞬間に
世界は変わる

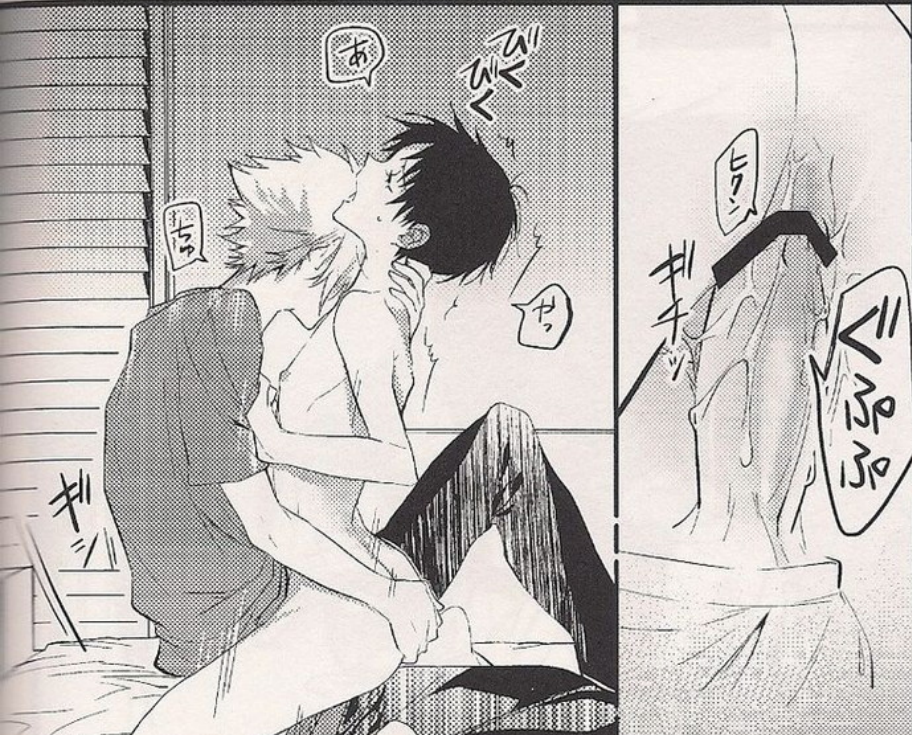


出会ったところと
同じ目

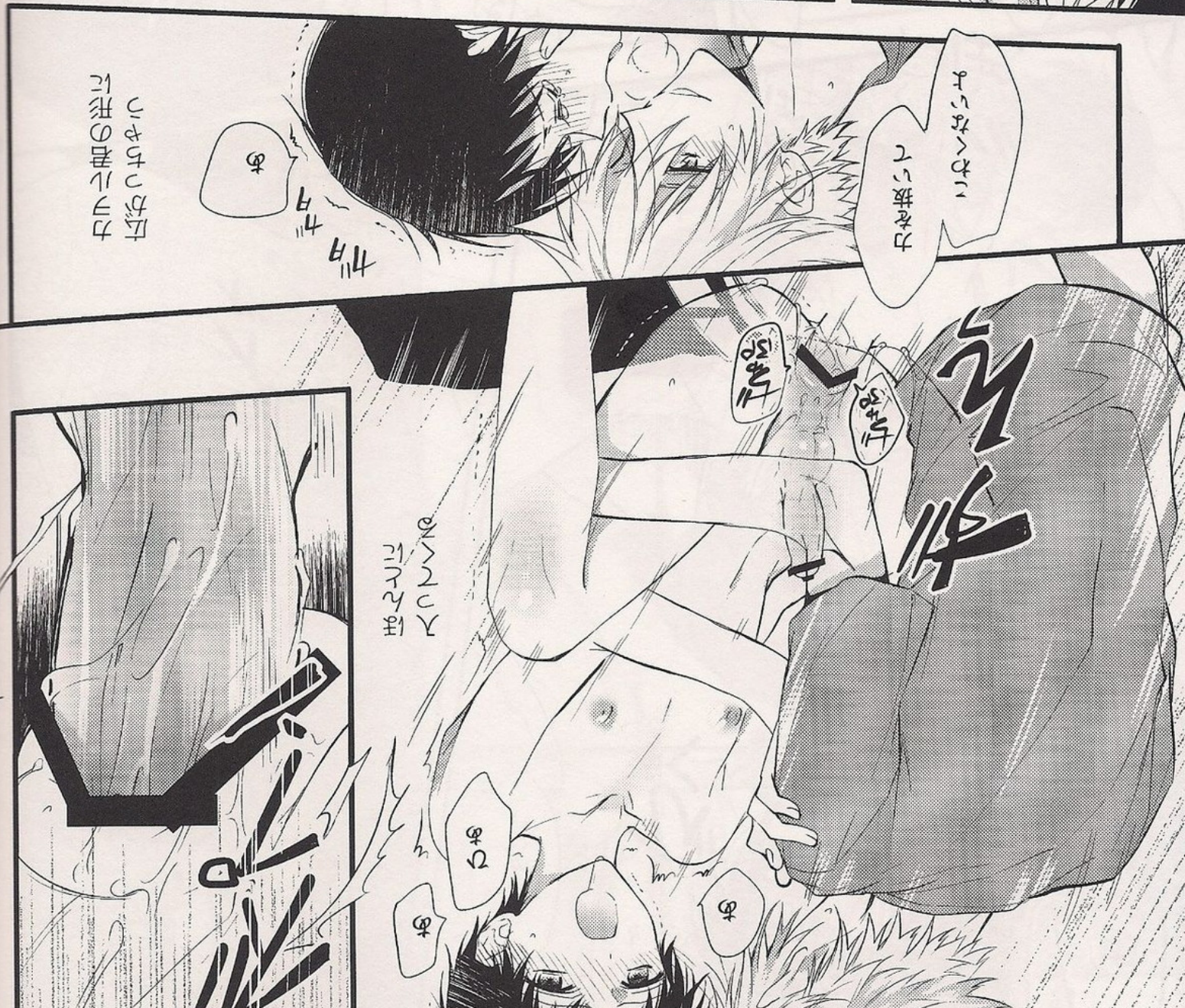
シンジ君
僕が怖い？

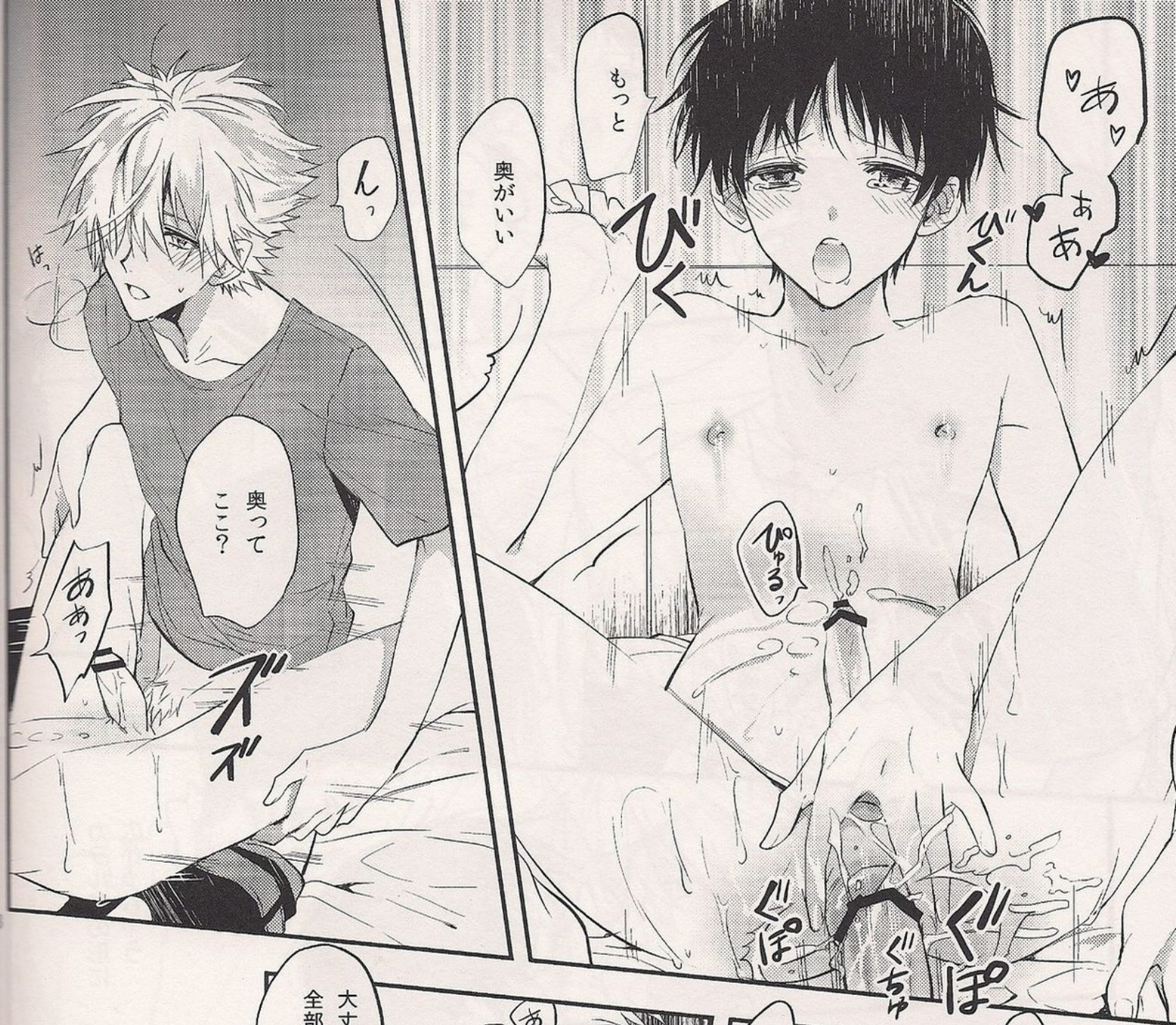
ぞくぞくするような
赤い光





僕はとつとつ
彼に捕まった





心も 身体も 真っ白にされていく

僕は君のもの

ずっと一緒

もうどこにも
逃げられない

君は僕の運命の人

シンジ君
気絶しちゃった
のかい？

しょうがない
子だね…
でも
まだ君の身体には
付き合って貰うよ

ズズズズ

じゃーん

ちゅく

ビー

ぐぐ

ズズズズ
グウカ

ふん

ぞく

はっ



これで君は
永遠に僕の物

僕の世界が 変わり始める 音がした



ごめん
トウジ

僕カヲル君のし
行かなくちや

センセー
一緒に昼飯
食おうや!

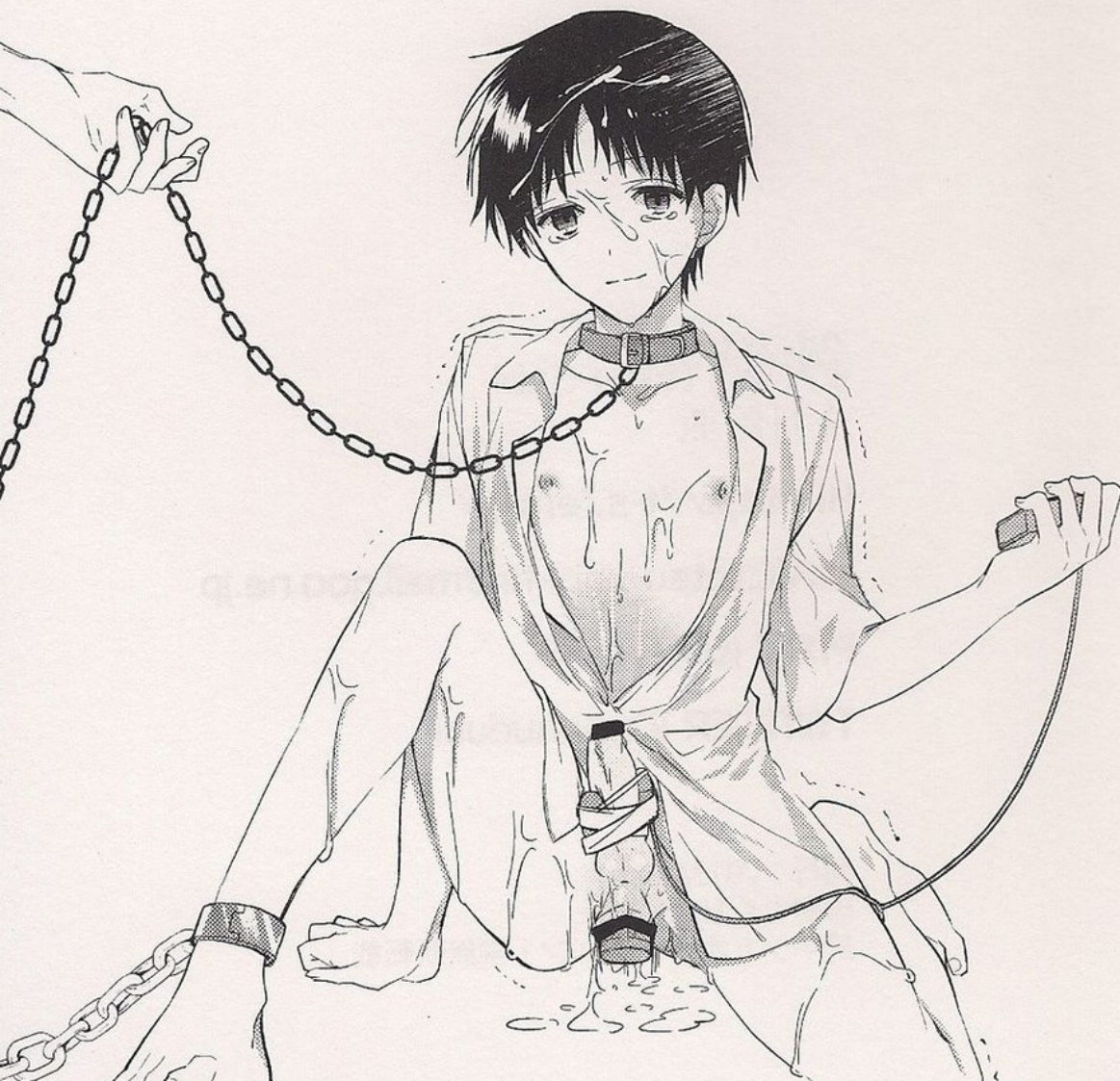






今日
僕の家
泊まりに来ない？





鉄錆Tetsu-Sabi
文月路亜

HP:<http://t-s.fem.jp/>

MAIL:tetsu-sabi-hr@mail.goo.ne.jp

PIXIV ID:468676

TWITTER ID:roahuduki

発行：2013/08/10

印刷：くりえい社

禁ネットオークション・禁無断転載



Evangelion Fan Book
2013/08 Tetsu-Sabi
KaworuxShinji



蝕まれた 世界の中で